

個人属性と地区道路の利用意識について

近畿大学理工学部 正員 ○高石 博之

近畿大学理工学部 正員 三星 昭宏

1. はじめに

これまで、筆者らは地区道路の道路利用について、とくに、非交通の道路利用を中心に分析を行ってきた¹⁾。道路利用意識はその沿道環境に影響されるだけでなく、個人の活動様式にも影響されている。地区道路沿道に生活する個人の活動様式は様々であり、年齢、性別、職業などのいわゆる個人属性がこれに関与していると考えられる。

そこで、本研究では個人属性に焦点をあて、個人属性がどのように道路利用意識に影響しているのか調べてみた。

2. 調査地区の概要

本研究で用いたデータは、筆者らが行った道路利用に関するアンケート調査による。この調査は12才以上の住民を対象に、自宅前道路の利用意識について調査したものである。調査地区は、大阪市阿倍野区阪南町地区で、昭和61年12月に調査を行った。調査対象とする道路は、1~2交差点間を1路線とし、この地区を代表するであろう歩行者優先道路4路線を含む16路線を選定した。サンプル数は1路線あたり10~40票で、合計273票のサンプル数をえた。

3. 現状の道路利用意識

現状の道路利用意識は筆者らが行った他の調査と同様に、今回のアンケート調査からも、ほとんどが交通中心の道路利用を示している。

主だった個人属性別に道路利用率に相違のみられるものを中心にみてみる。年齢別にみると、歩行で利用する場合を除き、全体に高齢になるほど道路利用率が低くなる(図-1)。また、道路利用の程度は、各利用内容間で一様ではなく、各年齢層ごとで順位に違いがみられる。

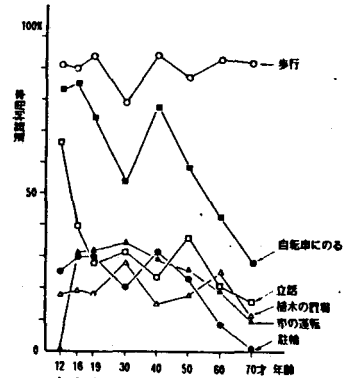


図-1 年齢と道路利用率

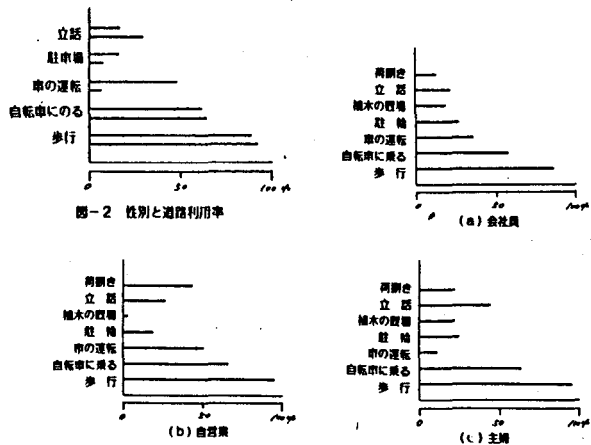


図-3 職業と道路利用率

Hiroyuki TAKAISHI, Akihiro MIHOSHI

男女別でみると、駐車、運転等、自動車に関係した利用率は女性に比べ、男性が高く、自動車免許の保有率や、車を利用する機会が比較的男性に多いためと思われる（図-2）。これに対し、女性は男性に比べ立話での利用率が高く、主に主婦の日常生活活動が地区内中心であるためと思われる。

職業別にみると、職業柄、自営業者は主に交通利用の割合が高く、主婦、学生に比較的非交通の割合が高い（図-3）。

4. 道路利用の希望意識

全体的にみると、希望意識面では非交通中心の道路利用希望率が約5割を占める。現状と同様、個人属性別に道路利用希望率に相違のみられるものを中心にみている。

年齢別にみると、現状の道路利用意識同様に、歩行で利用する場合を除いて、全体に高齢になるほど道路利用希望率は低くなりさらに、その傾向は顕著になる（図-4）。小学生以下の子供を持つ親が多いであろう30才代では、遊び場としての利用希望が高くなっている。

男女別でみると、現状の道路利用と同じく希望面でも、運転、駐車場所、洗車場所等、自動車に関係した利用希望意識は男性の方が女性に比べ高い（図-5）。一方、立話、植木などの置場としての希望意識は女性の方が高い。全般的に非交通の利用希望意識は女性の方がやや高い傾向がみられる。

職業別にみると、自営業者は他の職種と比べ、交通中心の道路利用希望意識が高い（図-6）。立話、植木の置場、緑台等での休憩等、非交通側の道路利用希望意識は、会社員が他と比べ高い意識を持っているようである。

5. 結語

今回、個人属性として、年齢、性別、職業を取上げ、道路利用率に相違のみられるものを中心に調べてみた。その結果、道路利用に関して沿道環境からは知ることの出来ない特徴をいくつか見出すことができた。最後に、今回取上げた個人属性をさらに詳しくみていくとともに、今後、他の属性についても調べ、沿道環境などと総合して、地区道路の利用について考えて行きたい。

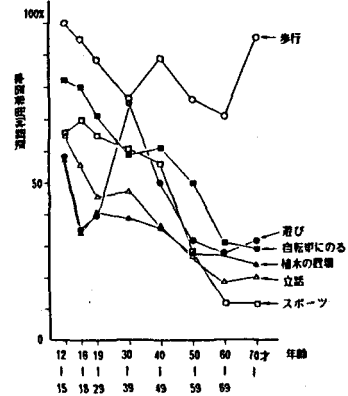


図-4 年齢と道路利用希望率

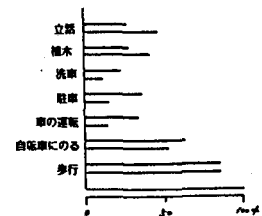
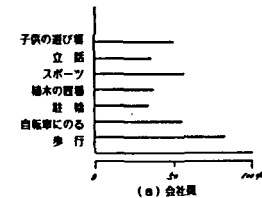
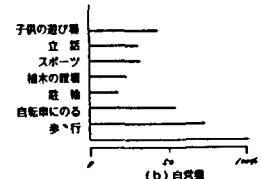


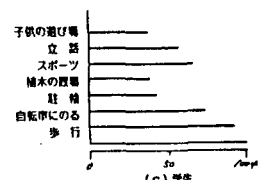
図-5 性別と道路利用希望率



(a) 会社員



(b) 自営業



(c) 学生

図-6 職業と道路利用希望率

参考文献：1)高石，三星：非交通目的を中心とした地区内の道路利用に関する一考察，土木計画学研究・講演集，Vol.9，1986。